

# ほの研通信

第7号

平成23年5月

発行者 ほのぼの研究所  
〒277-8568  
柏市柏の葉 5-1-5  
発行責任者  
代表理事 大武美保子

- ③ 講演会・交流会（三周年行事、クリスマス行事、NHK取材と放映）
- ④ 研究活動（学会参加、有識者の外部評価、ソフト改良、ロボット司会）

事務局長 長谷川多度

## 二〇一〇年度の四大成果

主要なニュースはその都度ほの研通信に記載されてきましたので、皆様は既にご承知のことと存じます。この機会に紙面を借りこの一年の歩みを総括したいと思っております。ほの研も発足以来早くも四年が経過し、その間色々な事がありました。本年の特色としては第一に厚労省所管の福祉医療機構から助成を頂き、且つ赤い羽根募金からも助成をたまわり、業務の内容が公的な性格を帯びるようになったこと、第二に地域が全国規模に拡大したことです。関東近県は勿論、西は長崎県、東は福島県にまたがり、先他市民研究員十数名は東奔西走いたしました。第三に業務の内容は、最も難しい引き籠り高齢者や初期認知症の方々に共想法を試みた点で、今後の改善点について貴重な知見を得ることができました。第四に技術的な改良が加えられた点です。十指に余る学識経験者から貴重な助言を頂き、検証方法への反映や、ほのぼのパネルソフトの改良など、遂にはロボットによる共想法司会の試みまでとびだしました。これ等を四大成果として列挙いたします。

① 共想法の実施（標準共想法・遠隔地の共想法・小規模多機能型居宅介護施設や介護老人保健施設の初期認知症者共想法・乗り合いタクシー送迎付共想法。地区社会福祉協議会への出前共想法など）

② 長崎北病院、さらりびとみやしろとの協働

## 二〇一一年度の四つの事業

共想法の普及に伴い、ほのぼの研究所では、活動を支える人材の養成が急務となっております。そこで今年度は、人材養成事業を中心に、四つの事業に取り組みます。第一に、共想法の地域での実践に取り組みたい、共想法に継続的に参加したい、共想法について知りたいという異なる要望に対応し、研修、継続、入門コースを開講すると共に、地域を超えた人材養成を可能とする遠隔教育支援システムを開発します。第二に、柏市及び千葉県社会福祉協議会の支援を受けて、昨年度に引き続き、出前講座と介護施設での共想法を行い、福祉医療機関、特に社会福祉協議会や介護施設との連携による効果的な実施手法を研究します。第三に、世界各地の高齢者を対象に共想法を実施することを通じ、地域差、文化差を考慮した共想法実施手法を明らかにし、実施を通じた普及を目指します。第四に、実施研究を推進すると同時に、各地での実施研究を支援する新たな役割を果たすための運営体制を構築します。

代表理事 大武美保子

## 有識者による外部評価

平成二十二年度に実施した、福祉医療機構助成事業を通じて得られた知見を多角的に検討することを目的として、有識者による外部評価を行いました。医学・医療の観点から、認知症介護研究・研修東京センター長の本間昭先生、

柏市医師会前々会長、前会長の小沼宗心先生、宮地直丸先生を始めとする七名、また、福祉・認知・運営の観点から、東洋大学教授野村豊子先生、筑波大学教授安梅勲江先生を始めとする七名、合計十四名の先生方に御講評を頂きました。共想法の効果検証



小沼先生、宮地先生による外部評価

や、効果的な実施方法、特長や位置づけ、行政との連携など、今後の事業の指針となる貴重な御指導を頂きました。ここに改めて感謝申し上げます。

代表理事 大武美保子

## 社会福祉協議会出前講座

（富勢・柏中央地区）

柏市内にはおよそ百五十のサロン活動があり、地区社協を中心に民生委員・児童委員、健康づくり推進員等で担っているところや町会・自治会を基盤とした所、ボランティアのみで立ち上げているサロン等があります。それぞれ月に二〜三回とさまざまな形で展開されています。

平成二十二年八月二十三日、富勢地区社協で出前講座を実施しました。認知症を発症した人、介護を要する人への接し方等を含め、認知症の発症を遅らせたり、予防することができるとの関心が高く、既存のサロンやこれから立ち上げようとしているサロン等でも取り入れることができると、まず研修したいとの意向で要請がありました。大武先生の講演に四十二名の参加者は熱心に聞き入り、NHKのDVDの放映、一分共想法など、とても興味深く取り組まれ、ますおの研修にもつながりました。長谷川、院長の上島、武下が担当しました。

十月二十九日、六十名余のサロンボランティアの方々を対象に出前講座を実施しました。当日は東大柏キャンパスと柏中央公民館の遠隔中継による大武先生のあいさつに始まり、ほの研、共想法についての説明に続き一分共想法を行いました。話題性のある写真も多く、初めてとは思えない程の熱気で進められ、四名の方にはブログの掲載にも協力いただきました。ほの研からのスタッフは長谷川、佐藤、前川、武下の四名でした。



富勢地区社会福祉協議会講演会

今年度は教育課程も確かなものとなり、それぞれのコースで進める新共想法の実施により地域の要請にも対応していくことが求められると考えます。

市民研究員 武下秀子

### 『きらりびとみやしろ』での講演会

平成二十三年二月二十三日、埼玉県南埼玉郡宮代町の図書館ホールで、宮代町が主催し、NPO法人きらりびとみやしろが実施する形で、NPO法人ほのぼの研究所の市民研究員による「ふれあい共想法」講演会が行われました。参加者約百六十名、ホールが一杯の盛況でした。ほのぼの研究所からは、長谷川、佐藤、前川、田口、黒田、武下の六名が参加し説明や実演の司会、記録などを分担して行い全員で質疑応答に対応しました。まず、主催者である宮代町副町長の真砂和敏様、実施団体であるNPO法人きらりびとみやしろ理事長の安部晨様からそれぞれご挨拶を頂きました。



百六十名以上の熱心な参加者

講演は市民研究員の佐藤さんの司会進行で、最高年齢者である八七歳の長谷川副代表理事が、二〇一〇年七月にNHK首都圏ネットワークで放映されたふれあい共想法に関する

映像を流した上で、共想法の進め方とほのぼの研究所について紹介しました。次に、市民研究員の前川さんが、共想法の背景と特色及び認知症予防について説明しました。休憩をはさんで、後半は、NPO法人きらりびとみやしろのメンバー



宮代町の図書館ホールで開催された「ふれあい共想法」講演会  
(宮代町公式ホームページより、許可を得て転載)

五名による、一人当たりの持ち時間三分、写真二枚での共想法の実演を行いました。テーマは「旅行と食べ物」です。一人ずつ、自分が旅した風景や故郷の様子、大好きな食べ物などの写真について説明を行いました。それらについて周りから活発な質問があり、積極的に話し合いに参加する姿が見られました。

認知症に関する懇話会の時間には、NPO法人きらりびとみやしろ副理事長 島村孝二様より、御挨拶を頂きました。参加者の皆様からは、「写真やパソコンなどいろいろ勉強することがありそうです。でも、私たちより先輩である研究員の方々が楽しく続けているので、挑戦したいです。」共想法に参加するための方法を教えてほしい。」といった、前向きな感想、質問等をたくさん頂き、盛会のなかに終了しました。

市民研究員 武下秀子

### 今後の予定

- \* 四月開講 研修コース ほのぼのプラザますお 月二回、一回一・五時間 13:30より
- \* 五月開講 継続コース ほのぼのプラザますお 月二回、一回一・五時間 13:30より
- \* 六月開講 入門コース ほのぼのプラザますお 申込者三名以上で開講 一回一・五時間 10:00より

\* 出前講座 各地区、施設にて積極的に開催します

問い合わせをお待ちいたします

\* 問合せ、申込みはメール [frifrice@fonobono.org](mailto:frifrice@fonobono.org)  
又はFAX (04-7172-6704)

### 編集後記

本年三月十一日に発生致しました、東北関東大震災は津波と火災により多数の犠牲者が出ております。その中でも六十%が高齢者とのこと、わが身につまされます。犠牲者の方、また被災された方には謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。

編集子